

卒論題目 プライドパレードをつくる人のエスノグラフィー

-さっぽろレインボープライド実行委員会を事例に-

著者名 倉本 優

キーワード プライドパレード、アセンブリ、プレカリティ、性的少数者、連帯

要 旨

本論文の目的は、性的少数者に対する差別解消を求め、また当事者の生や存在を祝福する「プライドパレード」における、参加者の華やかな服装や挑発的なプラカードの文言、行進中の音楽やバルーンリリースなどの演出性の高い実践及び、札フィールドにおいてプライドパレードの準備・運営などを主に意味する「活動」と呼ばれる実践をアセンブリ、プレカリティ（不安定性）の概念を基に描写し分析することである。

本論文は5章に分かれている。第1章ではフィールドと分析概念における先行研究を検討し、本研究の独自性を説明している。また、プライドパレードという実践の分析の軸となるアセンブリ概念を説明し、フィールドにおける実践との相違点を簡易的に論じることで、新たな概念や理論を本研究で創出することを試みる必要性を説明している。

第2章では、事前調査として本研究においてあらかじめ定義すべき概念の説明と、本研究のフィールドの経歴の説明を行い、第3章では本研究のフィールドや調査手法などの調査概要を説明している。そして、第4章では、どのような属性の人々がどのような理由でさっぽろレインボープライドに関わっているのかを紹介している。「人」、「セクシュアリティ/ジェンダー」を単位として、さっぽろレインボープライドの変化及び現状を論じている。

第5章では「レインボーフラッグ」と「シャボン玉リリース」を具体例として、プライドパレードにおける演出性の高い実践について論じている。また、パレード行進時の様子にも言及することで、分析概念であるアセンブリとフィールドの相違点をより具体的に論じている。本論文はさっぽろレインボープライド実行委員会に実行委員として所属しつつ、参与観察を行うことで、プライドパレードの人類学的研究に寄与するだけでなく、プライドパレードをはじめとした性的少数者の権利獲得のための実践に関わる人々について分析することで、実行委員会のどのような行為がどのような人々を結びつけ、どのような影響を及ぼしているかを考察することが可能となり、アセンブリ概念に新たな視座を提供するものである。